

第10回 川崎市多摩川プラン推進会議

議事録

■開催日時：2012年（平成24年）3月2日（金）16：00～18：00

■開催場所：川崎市市役所第3庁舎18階 第1会議室

■出席者（敬称略）

委員長	進士 五十八	前東京農業大学 学長
副委員長	北島 信夫	NPO法人多摩川エコミュージアム代表理事
委員	亀田 多喜	公募
委員	櫻木 進	公募
委員	山道 省三	NPO法人多摩川センター代表理事
委員(代理)	海津 義和	国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所河川環境課長

■議事録

1. 開会

2. 事務局あいさつ

3. 議事 ー川崎市多摩川プランの推進についてー

- (1) 平成23年度川崎市多摩川プラン事業実施報告
- (2) 平成24年度実施予定の主な取り組み
- (3) 委員からの報告

NPO法人多摩川エコミュージアム代表理事 北島副委員長

- (4) その他

(進士委員長)

- ・ 最近になって気がついたがこの会議は事業の予算・決算のような事やっている。しかし、考えてみると、これは一年間の活動の報告と来年の計画ですからね。この事業をより良いものとする事が委員の役割だと思う。そのように皆さんも考えて御意見を頂きたい。傍聴者の紹介はしてもらえないのか。

(事務局)

- ・ 明日任命である。

(進士委員長)

- ・ この会議はオンブズマンのような機能のものではない。多摩川ではこのプランを作る前から北島委員のような方々がたくさん活動してきているが、それを全市的な事業にするために多摩川プランを作り、市長も本気で取り組んでいる。プランを更に進めるために、市民も企業も参加して楽しく建設的にやっけて行こうという趣旨で話し合う会なので、どうぞ御二人共よろしくお願い致します。気になったら御発言下さい。

(以下、傍聴者挨拶：三谷様・加藤様)

(進士委員長)

- ・ それでは、資料説明を行って下さい。どうぞ。

以下、事務局による資料確認、説明

「議事 川崎市多摩川プランの推進について」の意見交換

(1) 平成23年度川崎市多摩川プラン事業実施報告

(進士委員長)

- ・ これで印刷に回るのか。

(事務局)

- ・ はい。

(進士委員長)

- ・ そういう意味で御気付きの点があればどうぞ。

(山道委員)

- ・ これを見ると、基本的に利用者のためのサービスという事を強調されているのはわかるが、本来は多摩川的环境を守っていくために、我々がどうすればいいのか、というストーリーかな、と思う。多摩川プランの基本方針は風景・歴史・文化を大切にしようとしている。「多摩川にとって」なのか、「利用者にとって」なのか、という事について表現を注意した方が良いと思う。サイクリングロードの水たまりを無くすために、舗装の上塗りをするという事が多摩川にとって良い事なのか。川とはそういう所が水を被る所なのだ、だから足元悪いというのは当然なのだから、そこをいつも乾燥させる、走れるようにするのは多摩川らしさを損なうということを理解した上で整備をする、と変わって来ると良いかなと思う。書きぶりの表現の問題もあろうかとも思うが、多摩川を良くしよう、環境を守って行こう、という辺りを基調とした表現をして頂けると良いかなと思う。

(進士委員長)

- ・ 「多摩川を保全・活用する」という12番以降はどういう順番で並べているのか。早くやったものから並べているのか。
- ・ 環境学習や水辺の楽校はまさに自然と親しむという事が必要で、スポーツイベントだと利用に関係している。多摩川の多面性調査と言うのは何？生物も利用も何でもやるって言うのを多面性と言っているのですか。

(事務局)

- ・ 並べている順番は、行事を行った順番というわけではない。
- ・ 多面性調査というのは、今回はとりあえず植物から入っているが、将来的には川にある歴史とかも含めて、エコミュージアムプランにあったように様々な要素を含んだ博物館的に、見

て知って感じて頂こうと思っている。そのとっかかりとして、今回は植物調査をGPSを使ってやらせて頂いたと言う事で、多面性調査と言う表現になっている。

(進士委員長)

- ・ 多面性調査という言葉は良いが、今年は植生調査をしたなら植生調査としても良かったのではないか。まあ、事務局としては毎年色々な事やって行きたいという事ですね。要するに環境調査ですね。
- ・ 「保全・活用する」に入っているが、保全をやるのであれば、そのベースとなる植生はどうなっているのかとかの説明やモニタリング調査があれば委員はピンと来るのではないか。保全・活用とセットだから分かりにくい。

(北島副委員長)

- ・ でも活用も多摩川の雰囲気とか環境を活用したデコレーションとか過ごし方とかあるから、そういう位置に立ってみると少し書き方が違うかな。

(進士委員長)

- ・ 整備と言うのはハードだから、それを踏まえて活用があるのだけど、考えてみたら難しいね。このプランは我々が作った訳なのだけれども。だけど今のことを少し意識して下さい。まず環境があって、学ぶ場があって、最後に活用がある。並べ方次第でだいぶ違うかなと思う。

(事務局)

- ・ 多摩川プランの「基本的視点」という並び方に沿って整理している。

(進士委員長)

- ・ 基本的視点の並び方ではなくて、各視点内での並びを言っている。保全系を先に入れば印象は違う。それから調査範囲の図はいらないのではないか。調査の結果の方を重視した方が良い。ハマダイコンしか調べてないのか。植生調査はもっとポピュラーな植物や珍しい植物も調べたのではないか。傾向が見えるのはハマダイコンしかないのか。

(事務局)

- ・ 今回の調査は、初めて川に来られる方が目にしやすい花を調べてみましょうという事で、「対象」に記載してある3種類ずつを調べました。希少種とかではない。

(進士委員長)

- ・ それはそれで良いが、ハマダイコンはハナダイコンじゃないのでしょ？そんなにきれいな花なのか。

(事務局)

- ・ 群生した時はきれいである。

(進士委員長)

- ・ 色は紫？白？

(事務局)

- ・ 真っ白の時も紫の時もある。

(北島副委員長)

- ・ 私からも説明したい。今回1年目で我々も一緒に活動したが、目的は歩きながら考えようということで始めた。たまたま手段としてGPSがある、多摩川をしょっちゅう歩いていて、あんな花がある、こんな動物が居たねとか、こんな魚が居たね、ということで、じゃあそれを統計的に見てみたいなど。全部調べようとするので、まずは春・夏・秋それぞれ1回ずつ3つの植物のカウントしてみよう。選んだ植物はきれいだとか特殊なものだとかいうわけではなく、特別な意味は無い。ハマダイコンについては、ある所にはあるけど、途中から何も無い所があると言う人がいたので、ではそれも調査対象に入れようよ、と言う事になって入れた。要は一回やってみよう、どういう状態でどういう分布になっているのか、結果を見てみようということだった。そうしたらある所からはハマダイコンが全然見られなくなるなど見事にいろんな結果が出た。来年度はどうしようかは話し合っているところでまだ結論は出ていないが、今年調べたものについてもう一回やったら何か結果がみえて来るのではないかという事を話している。とにかく、まずは歩いて考えてみよう。そして今後どうするかと言う事についてもぜひ皆さんから批判してもらおうと考えている。調査結果はものすごい量があるので、結果がアップされているホームページを見てもらいたい。ここにURLを書いてくれるとありがたい。もう一つ、この調査はある企業と一緒にやったわけですが、企業と、市民と、行政が一緒になってできたことがよかった。対象は何でもよかった。

(進士委員長)

- ・ 企業と言うのは、そのGPSの会社か。

(北島副委員長)

- ・ そうです、富士通です。

(進士委員長)

- ・ この電話がそうなのか。GPS機能が付いている電話をくれたのか。

(事務局)

- ・ 貸してもらった。

(北島副委員長)

- ・ 今富士通のサーバーにデータがたくさん集められている。

(進士委員長)

- ・ ハマダイコンの結果の図が芋虫みたいになっている。GPSでやった時にこのスケールの図に落とすところになってしまうから、もっとスケールの大きな図に落してほしい。楽しんでやっているから良いものもあるけど、例えばセイタカアワダチソウやオオイヌノフグリのような外来種がどの位に分布しているとか、調査と言うからには多少は何かあった方が良い、何か言える物が。

(北島副委員長)

- ・ これから、哲学を考える。

(山道委員)

- ・ 私が最初聞いた時は、企業と市民団体とそれぞれの役割を果たしながら環境調査をしましょうという、一つの試みであると言う事だったと思った。しかしこれは調査ではなく、協働型の事業という位置付けの方が良いと思う。研究者から見た調査と言われると困ると思うので、むしろこの扱いは市民と企業と協働として今こんな事をやっている、くらいがいいのではないか。

(進士委員長)

- ・ 企業とのパートナーシップ事業という事ね。

(山道委員)

- ・ そっちの方が良いと思う。

(進士委員長)

- ・ 櫻木さんや亀田さんからは何か意見ありますか？

(櫻木委員)

- ・ このハマダイコンの結果だが、どのくらいの量があったのかがよくわからない。いっぱいあったという事で良いのか。

(北島副委員長)

- ・ 今回は200mおきに調べていった。それを結果として落とすところになった。

(進士委員長)

- ・ その場所にどのくらいあるかというのは被度といって、覆っている面積で出すんですけど、今回の調査はそういう方法でやったという事では無い。被度の調査を行う場合は、メッシュを切って交点を抑えて行う。今回調査をするにあたって、そういうアドバイスは受けてないのか。植生調査を行う人は近くにたくさんいると思うし、市役所にだって植生調査する人はいると思うが。

(事務局)

- ・ 植生に詳しい者はいるが、そういう調査を専門にやってきた職員はもう居ないのではないか。

(山道委員)

- ・ GPSを使った調査は、群落も被度の話も狛江の方で試験的にやった事があるが、どうもハードの扱い方が慣れてないということがあった。今回の調査については、富士通のGPS機能のある携帯電話を使って、こういう事は出来ないかという実験をやったという事だと受け止めている。そういうふうに理解しないと、調査内容についての議論となってしまう。市民と企業が一緒に調査をしている、協働事業をしている、という方が良いと思う。

(進士委員長)

- ・ それならむしろ「多摩川を理解する」の方に入れたらどうか。これだと保全のため調査からは外れるし、少なくとも活用ではない。保全のための基礎調査というと調査内容の話になるから、多摩川を理解するためにGPSという最新で市民が扱える道具を使ってみたということにしてはどうか。今、「多摩川を理解する」には歴史と流域セミナーしか無いのであれば調

度良いのではないか。企業の支援と市民の理解を得てある種のモニタリングをやってみたという事で。

- ・ 亀田さんはどうか。

(亀田委員)

- ・ この時期に目につくのはペンペン草だが、雑草を刈ってしまうので、小鳥や虫が居なくなるのではないか。

(進士委員長)

- ・ 刈り方をコントロールしたり、刈ってない所を残したりしているとさっき説明があった。

(亀田委員)

- ・ それは一部で、ゴルファー達ももっと刈れ、もっと刈れて言うでしょ？

(事務局)

- ・ ゴルフの練習は禁止している。練習場の話か。

(亀田委員)

- ・ 練習場の話ではなく、ゴルフの小さなグループが内緒で土を運んでもらっているという事を聞いている。

(事務局)

- ・ どの辺りか。

(亀田委員)

- ・ 古市場の送電線の下あたりで、ちょうどサッカー場と陸上競技場の中間あたりである。

(事務局)

- ・ その辺りはゴルフを禁止でしている。

(亀田委員)

- ・ 県会議員のオジサン、オバサン達が居ますけど・・・

(事務局)

- ・ そのような許可は出ない。管理事務所の所長も居るので注意させる。

(加藤 (傍聴))

- ・ ゴルフについては実際私もトラブルになった事があり、下流の方では毎週土日の朝やっている人がいる。ラジコンと場所を分けながら、巧妙にここ何年かやっているのは見ている。

(事務局)

- ・ パトロールを雇ってはいるのですが、パトロールがいる時間帯にはやらない。

(加藤 (傍聴))

- ・ そうではなくて、そういう事実があるということ。私も見た事がある。同じ場所の事言っているかは分からないが。

(進士委員長)

- ・ それは情報提供と言う事で。

(事務局)

- ・ はい。

(海津代理委員)

- ・ 印刷がこのサイズだとサインの内容がよく見えないので、大きくして内容が分かるようにしてほしい。

(進士委員長)

- ・ サインの脚を入れるよりパネルの部分を大きくしてほしいという事ですね。
- ・ サインは利用禁止のものばかりあって、利用のサインは無いのか。トイレの場所とか渡しの場所を案内するようなものはないのか。禁止事項のパネルばかり並べるのはあまり受けないと思う。利用促進を進めればみんな変な事をしなくなる。

(山道委員)

- ・ 禁止のサインがあると逆に、これに書いて無いことはして良いのかという話になる。

(進士委員長)

- ・ 落書きは禁止事項に入っているのか。

(事務局)

- ・ 落書きは入っていない。

(進士委員長)

- ・ 折角サインができて、川に近付ける雰囲気できたということは伝えたい。気になるのは並べ方である。「多摩川を整備する」の最初がバーベキューというのはどうなのか。バーベキューは当事者の重要な課題だったから最初に来たのだろうけど。

(山道委員)

- ・ バーベキューの結果はどうだったのか。

(事務局)

- ・ まだ1年たっていないが、昨年までは地域の方からの苦情が多かったが、最近は利用者からの有料化に対する苦情が多くなってきている。そういうことを考えると広場を作って利用ルールを作ったことについては一定の成果は出たかなと思っている。

(北島副委員長)

- ・ 評価があつてやりましたって言わないと、他の所に逃げて行ってしまうのでは。狛江市は禁止にしたのではなかったか。

(事務局)

- ・ はい。条例化された。

(北島副委員長)

- ・ せせらぎ館の所でのバーベキューは増えて来た。

(進士委員長)

- ・ あれだけオープンな場所で食事をしたいというニーズは、この大都市においてはあると思う。秩序正しくやる事のためにちゃんと費用をとって、それが河川の保全や美化に使われるというプラス面があれば料金は割高でもいいのではないか。むしろ税金を補うくらいの感じでやればよい。本当は目的的にやればいんだらうと思う。京浜河川事務所の土地を占用して金儲けするというのは難しいのかもしれないが。他が禁止にしているところだが、川崎は懐が広くて、その代わりちゃんとルールがあって、秩序の下にあるということと、そこで得た利益を地域貢献のために利用させたりもできる。指定管理者にはもうなったのか。

(事務局)

- ・ 今年の4月1日からである。

(進士委員長)

- ・ 指定管理者に投げっぱなしではいけないので、しっかり管理して欲しい。
- ・ 「渡し」についてだが、渡しと言うのは、かつては生活のためにあった。船に乗って楽しいというだけではなく、対岸に何かをしに行くためのものであるから、体験でも、本当は対岸に社会見学などの何かがあって、それから帰る、という仕掛けが必要ではないか。いま、たまたま対岸の二子玉川で二子玉川園の跡地開発をしているが、そのなかで私が委員長で日本庭園を作っている。そこで文化財クラスの日本家屋を復元するのだが、そうすると世田谷の庭園をタダで川崎が使える。バーベキュー利用は世田谷から人が来ているのだから、今度は逆に川崎の人が世田谷の施設を使うと。言いたいのは対岸とのコミュニケーションである。それがあるといのが渡しののだという事を分からせないと。向こうとこっちが交流する事が大事である。
- ・ マラソンは国際マラソンと書いてあるが、これは市がやっているのか、それとも企業か。

(事務局)

- ・ 主催は市である。

(進士委員長)

- ・ これは有名な大会なのか。国際的なアスリートを呼んでやっているものなのか。

(事務局)

- ・ 川崎国際マラソンはハーフマラソンと10km、3kmがあり、フルマラソンではない。

(進士委員長)

- ・ 世田谷でもハーフマラソンをやっている。

(北島副委員長)

- ・ 国際と付いている意味は。

(事務局)

- ・ 過去には海外選手を呼んだ事もあり、そのときにつけた「国際」という名前だけが今も残っていると聞いている。

(進士委員長)

- ・ マラソン大会を多摩川プランに基づいてやっていると言うイメージは無いので、マラソン参加者全員にこの報告書を配るとするのはどうか。川崎は多摩川を大事にしている、多摩川を舞台に様々な市民の活動を応援しています、あるいは多摩川は市民生活の舞台に非常に重要な場所になっているんですよ、ということ共有出来るようにしないとね。

(山道委員)

- ・ 多摩川に触れてもらいたい、来てもらいたいという意図はわかるが、マラソンやサイクリングとは川の雰囲気を楽しんでいるのではないと思う。もう少し小さく扱った方が良くはないか。

(進士委員長)

- ・ まあ、多摩川施策推進課としてはいっぱいあった方が良くということでしょう。

(事務局)

- ・ マラソン大会に参加する人は多摩川プランというものがある事自体知らないかもしれないので、主催者にこういうものを配ってくれないかと話してみる。

(進士委員長)

- ・ あるいは全ての競技の主催者のところに多摩川施策推進課と入れてもらったかどうか。

(事務局)

- ・ 川崎国際多摩川マラソンと今月の18日にある多摩川リバーサイド駅伝は、多摩川ランフェスタとかつての教育委員会、現在は市民・こども局の市民スポーツ室が実行委員会を持って行っていることから、実行委員会での話し合いの中で、多摩川プランのことも伝えて行こうと思う。

(進士委員長)

- ・ マラソンであれ、サイクリングであれ、渡しであれ、個別に多摩川を利用するとしても、同じサインが入るのでビジュアルとしては一体感が作れる。それから利用者にも情報提供して、多摩川はみんなのもので、ただ空間として個々人が勝手に使っているというのではなく、もうちょっと市民として全体像を持ってほしい。プランの最初の段階で景観のコントロールもあったはず。簡単に言うと川のある街づくりをやっているわけだ。そういう意識を持って皆さんにも見てもらいたい。自分本位でやる人はどこにでもいるが、そういう人も多摩川を使いながら市民としての意識向上をしてもらおう。全体像を持って、川のある町の素晴らしさ、川崎市民としての帰属感、プライドを持ってもらおう。そういう方向にしていかないと、個別に多摩川を使われてしまって多摩川プランとしてまとめてもさみしいものになってしまう。
- ・ 地域に対する帰属感という点からすると、水辺の楽校の名前がひらがなになっているが、これは漢字の方がいい。水辺の楽校の「楽」という字が読めるのだったら、「大師」くらい読めると思う。難しければ振り仮名をふればいいのか。アイデンティティとか地域に対する帰属感の子供のころの教育のなかで叩き込んでおかないとだめである。絶えずそういう気配りが必要ではと思う。市民が140万人もいたら一人ひとりバラバラだが、多摩川でひとつに結ばれている、そういうものにしていくために多摩川プランがあるのではないか。そ

うしていくためにこの報告書の書き方に気配りしてもらって、それから順序にしても気配りしてもらおうと良いと思う。中身は良いと思うから。

(北島副院長)

- ・ 水辺の楽校の名前は全部ひらがなで登録されているのか。

(事務局)

- ・ 全部ひらがなである。

(進士委員長)

- ・ 今、小学校では画一的に、習っていない漢字は自分の名前までひらがなで書かせるようになってらしい。昔は自分の名前くらい漢字で書いたけど。まあ、何を言いたいかわかると思うが。
- ・ 報告書のタイトルに「多摩川は今」と書いてあるけど「川崎市民の多摩川」という気持ちである。

(北島委員)

- ・ 先に3番について説明させてもらっても良いか。

(3) 委員からの報告

以下、北島委員からの報告

(山道委員)

- ・ (二ヶ領せせらぎ館等は) 連絡先にインターネットのアドレスを載せたらどうか。

(事務局)

- ・ 今は電話での連絡をお願いしている。インターネットは一方的なので、やり取りをしないと相手の中身が見えて来ない。

(山道委員)

- ・ 8ページの二ヶ領せせらぎ館や大師河原水防センターのところは、施設の中身を含めてPRするような意味があるのかなと思ったので、事業の紹介としてURLを載せてはどうかという意味である。

(事務局)

- ・ わかりました。

(進士委員長)

- ・ これは事業報告だけど、利用案内にもなるという事ですね。参加してみたいという市民に情報を取れるようにしてあげたら良い。川崎で育った人がみんな多摩川で思い出に残る体験をすることだと思う。

(櫻木委員)

- ・ 私は今76で、我々の年代は多摩川で泳いだ年代だが、多摩丘陵の多摩川より奥の人は多摩川には行かない。今でも電車でわざわざ多摩川なんかに行かない。泳ごうと思えばプールがる

から。

(進士委員長)

- ・ だから、いろんなイベントとかプログラムが出来ている。水辺の楽校などがそうである。川べりの人だけではなく、川崎市民の多摩川だから。

(櫻木委員)

- ・ 140万人のうち多摩川沿いの人は半分か、1/3か。
- ・ この前、多摩川昔話と言う本を読んだ。狐とか狸だとかにだまされたとか言う昔話で、渡船場でウナギが「おい」と言って船頭がだまされたとか言う話がある。そういった歴史や昔話も書いてくれるといいと思う。

(進士委員長)

- ・ どの川にもそう言った話があったが、整然と整備されるとそういうものの影が薄くなるけれど、もっと伝える義務がある。長島さん(地域歴史家)たちの歴史はちょっと高級な物語しかないから、もっと一般市民向けの物語もあってもいいかもしれない。多摩川ガイドとか多摩川検定とか出来ると良いかもしれない。どっかのグループが多摩川検定やろうよ、と言って、小学校などでやってくれれば面白くなると思う。多摩川博士とか作るなど。

(北島副委員長)

- ・ 環境学習の中では子どもたちは歴史の勉強もしており、二ヶ領の歴史なども勉強している。

(加藤(傍聴))

- ・ 報告書の4ページにある「有料バーベキュー広場」の所を見た感想を言わせてもらうと、良く出来ていると思うが、インターネットなどとの連動が手薄で、若い世代からすると古い、中途半端に見える。例えばツイッター画面が載っているが、これはなぜ載せているのか。

(事務局)

- ・ これまで市ではHPを開設していたが、バーベキュー広場の開場・閉場の情報を利用者にお知らせするための手段として、ツイッターで情報配信を活用している。その例として画面を載せている。

(加藤(傍聴))

- ・ それは文章を読めばわかるので、画面を載せている意味が分からない。ハッシュタグを載せるなどツイッターへのアクセス方法や、リアルタイムに情報発信しているということが読み取れるようにすべきだと思う。
- ・ 有料バーベキュー広場を開設した事で住民からの苦情も減っているという事だが、その数がよくわからないので、本当にこれが良かったのかが分からない。一方で改善されたという回答が85%という非常にいい数字が出ているので、その結果のグラフを前年度との比較として入れるとか、はっきりと見せた方が市民は安心する。川崎市が広場を有料化にして非常に良かった、ということグラフや数字で確認できる方が良い。ツイッターの画面を載せるのはあまり意味がないと思う。
- ・ また、この報告書は事業報告であるが、一部今後の予定も書かれている。例えば9ページのリバーサイド駅伝のところは予定が書かれているので、予定を入れるなら入れる、入れない

なら入れないで統一した方が良い。予定を入れるならば、最後に一覧を入れればそれでいいのではないか。結果と予定が混在していると、予定が入っているところに力を入れているのかと勘違いされる。また今後の予定についてはインターネットとの連動があった方が良い。紙では報告をして、今後の予定はインターネットへ誘うという書き方をした方がいい。

(進士委員長)

- ・ これは事業報告なので、予定は報告書には書かないのでしょうか。たまたま3月中のやっていないものがここに載っているだけだと思う。
- ・ それ以外の話はホームページの案内をしたり、どういう風に情報にアクセスしたり、という事は書かないといけない。

(山道委員)

- ・ バーベキューについて、有料化する事によってゴミ処理費用に回すと言うだけでなく、多摩川の環境保全の方にも回すという言葉が一言あればよい。市の収入補てんと言う事ではないと思うが、そうすると、これを見た周辺自治体もじゃあうちも、となるかもしれない。その辺りは多摩川プランの理念に基づくような表現にしてもらえると良いのではないか。

(櫻木委員)

- ・ 3ページの1番、「多摩川の渡し」にある写真の下に「復活」とあるが、復活という表現で良いのか。記事を読むと1日行って帰ってただけのようだが、復活と言うと24時間やっているという感じがする。

(進士委員長)

- ・ 復活というよりは再現でしょうね。復活と言うと定着してないといけないから。

(山道委員)

- ・ 先ほど話に出た、世田谷との連携と言うような話は入るのか。

(事務局)

- ・ 載せるとしたら来年度になる。

(進士委員長)

- ・ もし決断できるなら、ちょっと入れられたら良い。啓発の道具でもある訳だから。これを読んだ人が、バーベキューに対する市の姿勢として市民にはこういう所を理解してほしいと思っている、ということなど、これを読んでくれる人へのメッセージがあっていいと思う。市の方で伝えたい事があれば、上手に盛り込んだら良いのではないか。まだ未確定な物は入れてはダメだが。

(事務局)

- ・ バーベキュー広場を開設した事によって、ゴミの散乱が無くなって、河川環境が改善されたというような事を入れたいと思う。

(進士委員長)

- ・ 単にバーベキュー広場の開設についてだけではなく、それをやることの意味とか、実験的にやってここはこうだ、ここはこう変えていく、ここは課題というようなことを入れたい。

それが事業報告の趣旨なので。

- ・ 「渡し」のところには「多摩川の歴史を彩る風景」というタイトルが事業名として付いている。「渡しの復活」とか「渡しの再現」ではなくここだけ「多摩川の歴史を彩る風景」という形容詞がしっかりついているのは特別に意味があるのか。

(事務局)

- ・ 多摩川プランにあるという事もあるが少しアレンジを加えたという事である。

(進士委員長)

- ・ それと、水辺の楽校が別になっているが、これも大きくは環境学習になるのでは。並べ方の話だが。

(山道委員)

- ・ 並べ方は重要ですよ。どういう風に整理するかは。

(進士委員長)

- ・ あと写真は角を落として丸くしたりしているが、毎年こうしていたのか。丸め方のアールが違うのが気になる。8ページは角の落とし方が弱い。工夫してみてください。
- ・ それと表紙が気になるが、写真が汚いのはきれいになるのか。

(事務局)

- ・ わざとボカしている。

(山道委員)

- ・ 表紙の川の流れは左岸側からみたような風景だから、右岸（川崎）側からみたような形の方が良いのではないか。

(進士委員長)

- ・ 表紙に2011と書いてあると前年のもの、古いものに見える。前も議論したがこの表現をどうにかならないか。発行日は2012年の3月か4月になるのだから発行日だけで良いような気がする。

(北島副委員長)

- ・ 役所で西暦が先に出て平成が後になるのは珍しいですね。

(進士委員長)

- ・ マラソン大会など配るとすると、2012年の大会に来た人が2011年の物をもろうことになるわけだが、「今」のものだ、と言う風に錯覚させたい。表紙にある「2011」を何とかできないか。これでは「多摩川は今」ではなく、「多摩川はこのあいだ」である。もらう人の立場を考えて工夫したらどうだろうか。
- ・ では、今年の予定の話に行きましょう。

(2) 平成24年度実施予定の主な取り組み

以下、事務局による資料説明

(進士委員長)

- ・ この調査は植生調査ではなく、植物調査の方が良いね。植生は植物社会と言うことだから色々な種類が全部なくてはいけない。子供の頃から植生調査がハマダイコンの調査だと思われても困るから。
- ・ サイクリングロードは今どこの管理か。

(事務局)

- ・ 上流は神奈川県、河口部は川崎市が管理している。

(進士委員長)

- ・ 移管されるにあたり、県から委託費は来るのか。

(事務局)

- ・ 来ない。今後は川崎市の費用で管理していく。
- ・ 傷みが激しい所などはきちんと直して頂いてから引き取る。

(進士委員長)

- ・ じゃあバーベキュー広場でもやって稼がないと。

(山道委員)

- ・ サイクリングコースの整備として写真が出ているが、スピードを落とすために道路のハンプまで作ったとしてもこんなの慣れてる奴は無視する。こんなに走りにくいものを減速対策として作るのはいかがなものか。完璧に矛盾している。狛江市でサイクリングコースを裸地にしたのはスピードを出させないためである。舗装しなければ良い。河原と言う所はそういう条件なのだという風に理解してもらわないと、快適なサービスを求めてしまう。

(進士委員長)

- ・ サイクリングコースは河原なのか、それとも堤防なのか。

(海津代理委員)

- ・ 堤防天端である。河川管理施設の堤防の天端は、昔は舗装しないで砂利道だったが、管理用道路として車やバイクが走るという事もあり、道路の占用やサイクリング道路の占用という部分は舗装した。また占用が無くても舗装していないと雨水が浸透し、堤防が弱くなるという事で、最近では舗装するように考え方が変わって来ている。
- ・ 天端を占用するとなると管理が発生するが、占用者の管理になる。

(進士委員長)

- ・ 天端の道路に模様を描くのは占用者ということか。これは事故が発生するからこういうもの描くということか。

(事務局)

- ・ はい。

(海津代理委員)

- ・ 最近ではサイクリングブームで利用者も増えているが、自転車は音もしないので、人との事故がどこの川でもあります。

(進士委員長)

- ・ 歩道でも自転車は飛ばして走っている。

(山道委員)

- ・ 自転車に乗っている方が亡くなるケースもある。

(進士委員長)

- ・ どうするのがいいと考えているか。

(事務局)

- ・ ルールを守ってもらえない。自転車はキープレフトで一列走行など。でも多摩川は幅が狭いので難しい。

(山道委員)

- ・ 速く走ってもらうために舗装しているのではないのか。一方で速く走らないための装置も用意するというのは二重投資ではないのか。あり方を考えて。

(事務局)

- ・ 管理者として立場もあり、プランと相反する部分もあるので、非常に苦慮している所である。利用者の中にはサイクリングだけでなく、マラソンをする人も散歩をする人も居るが、泥道だと利用者は歩かない。

(山道委員)

- ・ それは利用者のスタンスに立って発想するからそうなる。多摩川というスタンスに立っていないから混乱する。その筋が一本通ってれば、相反する事は出て来ないと思うが。

(事務局)

- ・ 行政としては利用者のことも考える必要があるため、相反する所が出て来る。その辺で板挟みとなる。

(進士委員長)

- ・ 事故が多いなら、事故が多いという事を情報として入れたらよい。行政としてやれる事はそれしかないと思う。一人ひとりの意識までは変えられない。堤防の上を走る事はどうか、他の利用者に気配りする事、自分勝手に走ってはいけないという事を言うしかない。その為にも事故の発生数や死傷者の数は伝えて啓発すべき。サイクリングの人、歩く人にも注意するしかない。

(山道委員)

- ・ 自転車にも普通の自転車とハイスピードの自転車の2種類ある。問題はレースの自転車であ

る。

(進士委員長)

- ・ サイクリングについては情報提供と忠告をするということで、中身の話に移りたい。サイクリングコースは拡幅するのか。

(事務局)

- ・ 可能性を検討するということである。

(山道委員)

- ・ この話はよその所も注目しているから余程議論しないと。安全対策も含めてデータを出して、川崎がどう判断するのかというのは重要な事だと思う。

(進士委員長)

- ・ こんな見通しの良い所でぶつかったりするのか。

(山道委員)

- ・ ブレーキが無い自転車もある。レース用の自転車である。

(進士委員長)

- ・ レース用の自転車で走ってはいけないのでは。

(海津代理委員)

- ・ 道路交通法違反である。

(事務局)

- ・ 道路でしたら違反となるが、そうでないと通路なので違反とならない。

(進士委員長)

- ・ それは道路指定した方がいい。それと競技用の自転車は規制しないと。競輪とか爆発の芸術とかは町の中に出してはダメである。
- ・ この資料についてはこれで良いか。
- ・ この資料以外にも、継続の事業があるのでしょう。

(事務局)

- ・ 継続事業は次に会議の時に御報告させて頂く。

(山道委員)

- ・ 本年度の話を聞いて気付いたのは、景観という軸が消えてしまったということ。それと歴史と言うのも前はあったと思う。この点について来年度はどうするのかどうか考えて頂けたら。

(進士委員長)

- ・ 多摩川の風景づくりというのがあったと思う。川崎市の景観条例はどうなっているか。多摩川の景観条例はどうか。

(事務局)

- ・ 多摩川の景観形成ガイドラインは出来ている。

(進士委員長)

- ・ 川崎市全体の景観計画はどうか。私の所若い研究者が多摩川沿いの景観調査ずいぶんやっけてドクター論文まで書いているのだが、川沿いが高層化して行っており、川のオープンスペースとしての良さを損なって来ている。川への眺望が商品価値だから高層マンションが張り付いている。景観的にそれをコントロールしないと、ビルの谷間の多摩川になったらえらい事である。そういう事も考えないといけない。そういうことは景観基本計画でやらないと無理である。都市計画法と景観法を使えばコントロール出来る。歴史的な雰囲気考慮してそこだけは押さえておくとか、全面的な展開というのは厳しいにしても、緑の住宅と言えるような場所についてはそれを守るようにするとか、多摩丘陵と連続した場所を守るとか、そういう事をやっておかないと多摩川だけでは対処できない。多摩川施策推進課が全面的に出来るかは分からないが、関係部局と協議しておいたらどうか。

(山道委員)

- ・ 『多摩川を記録する運動』で多摩川の堤防から富士山が見える場所、5階建て以上建物を調べてある。これ見ると川沿いに相当マンションが張り付き始めている。この資料を差し上げるので見て欲しい。多摩川で何を利用しているかの一斉調査である。こういうのも市民参加型で調査をやられると良いのかなと思う。

(進士委員長)

- ・ いずれにしても、風景づくりと歴史の話である。歴史はエコミュージアムプランでやっているのではないかな。

(山道委員)

- ・ ニヶ領では歴史編としてはやった。

(事務局)

- ・ 報告書の作りが、行政が主体的に関わったものが主となっているが、そういった部分も含めて今後は作って行きたいと思っている。

(進士委員長)

- ・ セミナーや講座で、歴史の掘り起こしをやって行けば良い。これは昔から山道さんのライフワークである。多摩川に関する色々な歴史や自然の資料をお持ちなのでそれを整理するだけでたくさんのお話が出る。また対岸との相互交流が大事だと思う。川だけではなく両岸があって川であるから、広域行政とか広域的視点を持つ事、その辺を忘れないでやったら良いと思う。川崎側がリードしながら相手側も取り込んで、渡しもあって行ったり来たりとか。川崎側には農地もあるのでバーベキューでは川崎の野菜使わせて、農家を応援して農地が残る、そういう循環型の政策をしないと。これは緑政部長の仕事だな・・・。

(櫻木委員)

- ・ 私もサイクリングをしているが、川崎側と東京側では、土手を歩く人の数が違う。川崎は多摩沿川道路があるのでアクセスの問題があって、歩くのが億劫になってしまう。東京側の方がずっと多い。それと、東京側は一定距離ごとに何mという表示がある。川崎側は無い。それから6ページ一番下の図に簡易水洗トイレとあるが、非常にありがたい。でも、ニヶ領

用水の入り口（布田橋）が通れないので水道局の方をぐるっと回るしかない。高津の方は良くなってホッとしているが。僕感じでは二ヶ領上河原堰の所だけである。

（進士委員長）

- ・ それはいずれ事業面で頑張らしましょう。
- ・ 他になければ継続して頑張ってもらえるということで。せっかく印刷物を作るなら、バーベキューをする人にもプランを紹介できるように、多摩川に足を踏み入れた人には伝えて行きましょう。1，2年大量にアピールすれば定着すると思う。道路の話は道路部局が整備しようかとなると思う。

（櫻木委員）

- ・ 頂いた資料には植物の写真もあって良いと思う。さっき文言でダイコンがどうだこうだと言っていたが、こういう図も後ろの方に入れて頂けると良いのではないか。

（進士委員長）

- ・ オブザーバーの方どうですか。

（傍聴）

- ・ オブザーバーはここでは発言しないことになっているので遠慮します。

（進士委員長）

- ・ それでは予定よりオーバーしましたが、みなさん、どうもありがとうございました。